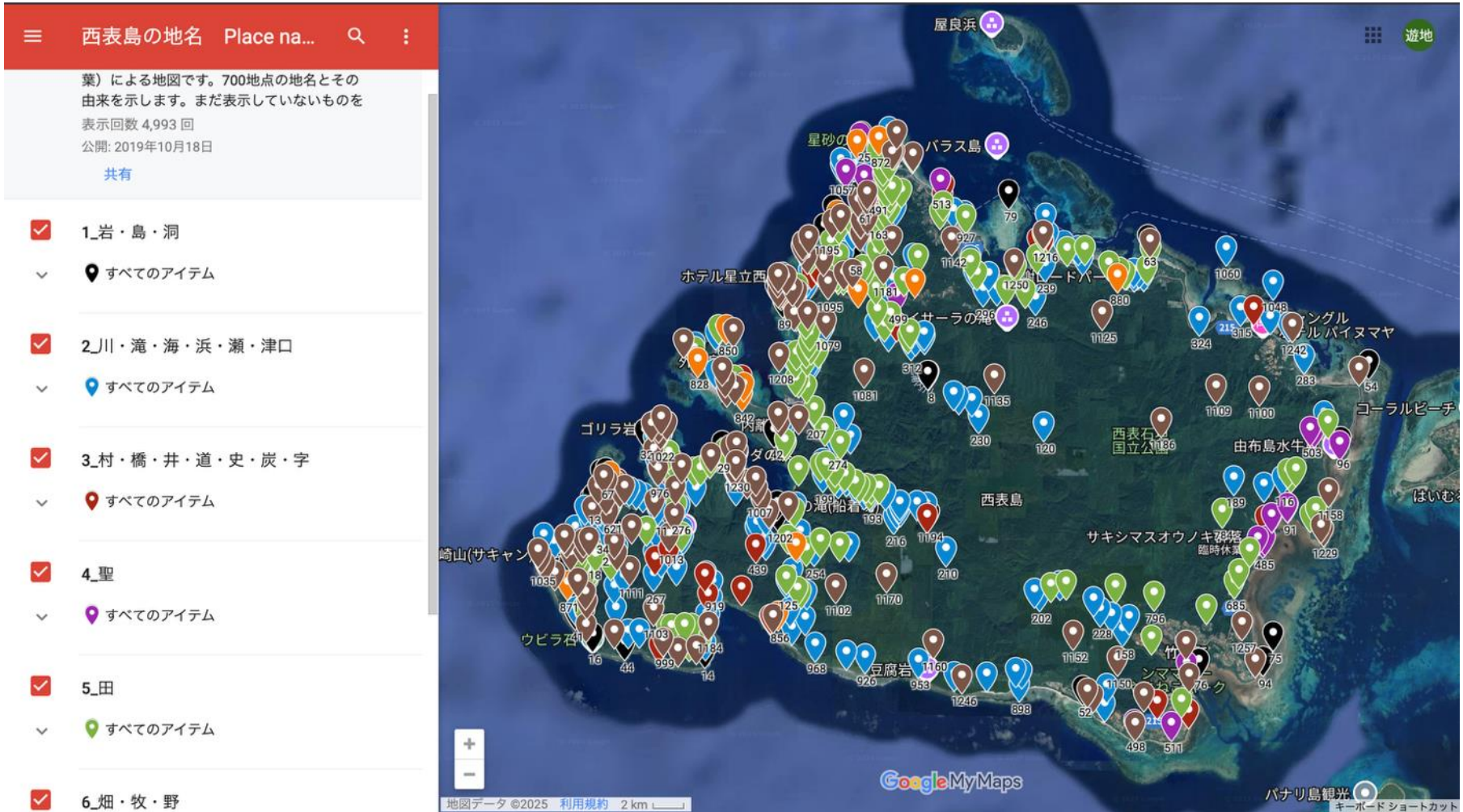
歴史的遺産としての沖縄県の地名
琉球弧の島嶼名と失われる微小地名
歴史史料の再検討と西表島地名データベースを例に

https://ankei.jp/yuji/?n=3059
でこのファイルは公開中です

安渓遊地（西表をほりおこす会）y@ankei.jp



ヤマネコの島＝まるで無人島あつかい

「文化力のある島は滅びない」
（石垣金星『西表島の文化力』）

・廃村も含め島中につけられた1400の地名をデータベース化

・アイヌ民族や台湾原住民族の地名を取り戻す抵抗運動と呼応

・抵抗地名（共産党時代に4度も地名が変わった場所を、「政治的失敗大通り」と呼ぶプラハ市民の例）

Ptáčníková Martina, A journey through a collective memory of a city. Non-standardized urban toponymy as a means of silent resistance and collective humour during the Communist era in Czechoslovakia // *Коммуникативные исследования*. 2019. №1.

1977年　干立（当時は星立）

微小地名＝文化と自然の歴史の証人

西表島西部仲良川の支流　トゥイミャーパラカーラ（豊見親柱川）　15世紀に宮古島の首長の豊見親の強制的命令で柱材を切り出した川。関連地名多し。

https://ankei.jp/yuji/?n=91

廃村網取の水田に残る（1771の）津波地名

アハナーマシ（バラフエダイが入った田）

フクリピャーマシ（モンガラカワハギが入った田）

エハダァ（イカが入った小さな田）

山田武男著, 安渓遊地・安渓貴子編,1986『わが故郷アントゥリ』(おきなわ文庫) Kindle版

(c)HEYANEKOの棲み家

西表島西北部の宇那利崎（うなりざき）　地元では ウナザシ

九州の野間の岬から迎えた女神（媽祖）が鎮座　「うなり」は姉妹の意味で、「をなり神信仰」と媽祖信仰の習合の証拠か

https://ankei.jp/yuji/?n=75

「昔炭鉱 今観光」＝勝手に命名するな

仲良川支流　一番川　二番川　↓ゴリラ岩　　月ヶ浜

母音音素数＝3･5･6･7の八重山方言
自称と他称群が交錯する島名

西表島（西部）の自称は　イリムティ
竹富島の　自称は　　テードゥン
与那国島の自称は　　ドゥナン
西表島から　与那国島を　ユノーン
西表島から　竹富島を　タキドゥン
竹富島から　西表島を　シューヌン
（シムヌフン＝下の国　の転訛）
南岸中央の南風岸岳（はいぎしだけ）
　西部からは　パイキシダキ　　東部からは　イーシゥダヒ

竹富島の上勢頭亨さんに習う

Dunaj(ｽﾛﾍﾞﾆｱ)=Wean(墺)=Wien(独)=Vienna（英）=Vienne(仏)

Perko, D., Jordan, P., Komac, B. 2017: Exonyms and other geographical names. *Acta Geographica Slovenica* 57−1. https://doi.org/10.3986/AGS.4891

「ウ離」→アウ離　国土地理院地図の〝ア切れた〟誤りを直したい

地元ではアウ/アウバナリ/アウジマと呼ぶ。近くに赤離島あり。地理学者の仲松弥秀は、沖縄島と久米島の奥武（オー）地名に注目し、オー（アウ）地名は「青」が語源であり、他界を表すものではないかと述べている（安渓遊地「地名」『竹富町史・西表島編』印刷中）。

もとのもくあみ＝地名復興の取り組みの成果が継承されない→UNGEGNの必要性

「文化的ジェノサイド*」に抗する石垣金星氏の道路標識訂正の半世紀にわたる戦い

月ヶ浜　→　トゥドゥマリ浜　は　聖地

マリュドゥ滝　→　マリユドゥと4拍で

カンピレー滝　→　カンビレー 神々の交際

復活した　〝月ヶ浜〟　の道路標識（上）

せっかく正しくした看板が古びてくる（下）

*安渓遊地、2010「文化的ジェノサイド」『地球環境学事典』弘文堂, 188-189頁

1944年10月10日の沖縄大空襲（那覇市9割焼失）にともない米海軍が撮影した空中写真と日本地名集

出典：　安渓遊地・安渓貴子、2010「奇跡のコレクションとの出会い――韓国・済州大学校所蔵の奄美沖縄空中写真予備調査報告」安渓遊地・当山昌直編著『奄美沖縄環境史資料集成』南方新社

写真４　軍用の地名集 Gazeteer の一部

戦争のための地名集・地図づくりに協力した学者たち　「地名標準化」は誰のため？

左：東京の可燃度地図（OSS1942）　右：1945年3月10日空襲から一夜明けた東京

Fedman, D., & Karacas, C. (2012). A cartographic fade to black: mapping the destruction of urban Japan during World War II. *Journal of Historical Geography*, 38(3), 306–328. https://doi.org/10.1016/j.jhg.2012.02.004

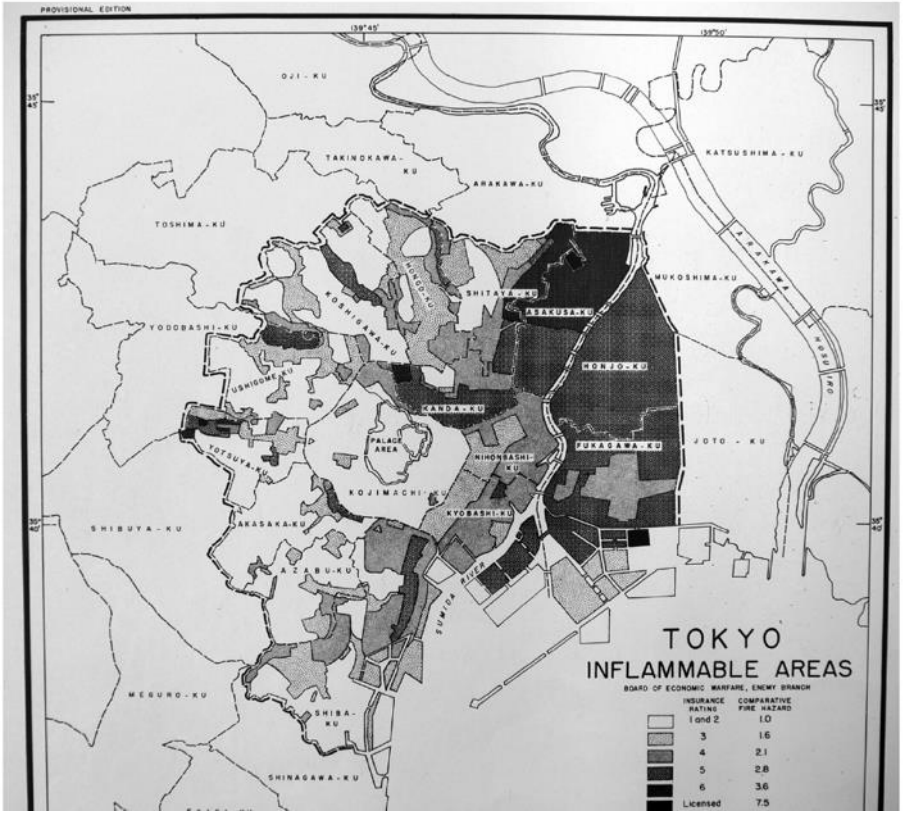


Fig. 10. Tokyo – the morning after! Source: Library of Congress, Curtis LeMay Papers, *Air Intelligence Report*, Vol. 1, No. 2.

結論・民衆の科学としての地名記録へ

西表島をほりおこす会、2020「西表島の生物文化と地名データベース」
https://aiiriomote.wixsite.com/mysite

Perdana, A., & Ostermann, F. (2018). A Citizen Science Approach for Collecting Toponyms. ISPRS *International Journal of Geo-Information*, 7(6), 222. https://doi.org/10.3390/ijgi7060222

左はインドネシア　Lombok島での地名収集のようす。
地名リストを村長と伝統首長が確認し、公印を押して、GPSをもちいて現地で現場を確認して地図に落としていく。